

# Bottle Switch

ポリクチ

エントリーナンバー2番

## 1 要旨

近年、SNSの発達によって人と人が繋がり易くなったと言われています。しかし、本当に繋がり易くなったのでしょうか？SNSが発達したが故の問題点を無視してはいないのでしょうか？SNSの発達により、情報が手軽に入手できることで繋がる人を無意識的に選択してしまう、自分の行動がSNSで晒されることを恐れ、他者の反応を必要以上に意識した行動をしてしまうといった問題があります。

よって、必要なのは、先入観を持たずにコミュニケーションのキッカケを得られ、悪い影響を後に引かないツールだと考えました。

そこで私達はボトルメールに着目しました。

仮想的なスイッチを交換し、出会いの機会を増やすアプリとして実現します。

## 2 背景

現代社会において、SNSなどの発達によって人と人が繋がりやすくなったと言われています。例えばTwitterの普及により、自分が今どのようなことに関心があるのか、どのようなことを行っているのか、どのような性格なのか、といった情報が容易に発信でき、さらに同じように他者の情報を入手することができます。このことから、初対面といった状況が起きづらく、コミュニケーションが円滑に進むことでしょう。

しかし現代社会において、本当に人と人は繋がりやすくなったと言えるのでしょうか？

SNSなどの発達は、人同士の監視を強くし、上辺だけの付き合いを助長していると感じる部分はありませんか？現実世界では数人に見られていることであっても、SNSに発信されるだけで数万人に見られることになるでしょう。そのような状況で本当の自分を表現できるのでしょうか？

人とコミュニケーションを取る前から、提示されている情報から自分と都合のいい人とだけ繋がろうと思うことはないですか？人と会うときはまず相手のTwitterを確認する、Facebookでメッセージを送るということは珍しくないでしょう。

人と人が繋がりやすくなった世の中は人と人の繋がりを限定してはいませんか？

そのような時に必要なのは、先入観がない閉じられたコミュニケーションではないのでしょうか。

本当のあなたはどんな自分でしょう。

## 3 提案内容

SNS が発達した上で大きな問題点として、

- ・手軽に情報を入手できることにより、繋がる人を無意識に取捨選択してしまう
- ・SNS に晒される恐れがあり、本当の自分を表現し辛い、深い付き合いができない

以上の2つが存在しています。

この問題点を解決するためには、

- ・情報がないランダムな人間と繋がる
- ・悪い影響を後に残さないための構想

が必要であると考えられます。

これらのことから、ボトルメールに着目しました。

ボトルメールであれば、比較的ランダムな場所で情報が入手できない相手にメールを届ける事ができます。また、メール以外に繋がる方法がないため、両者の合意がない限り、悪い影響を後に残さない環境を維持することができます。

そのため、ボトルメールであれば、問題を解決できると考えられます。

しかし、現実のボトルメールでは、比較的ランダムとはいえ、海岸や川辺にしかボトルが届かないことでランダム性が低いこと。また、それに伴いボトルが拾われる可能性が低いといったことがあります。また、ボトルメールはその後のやり取りを行うために、手紙を送ってもらう住所やメールアドレスを記述する必要があります。匿名性が高い状態にすることもできますが、その情報により悪い影響が後を引く可能性があります。

そこで、ボトルメールをスマートフォンアプリ「Bottle Switch」として実現します。

ボトルメールをスマートフォンアプリとして実現することで、海岸や川辺以外のランダムな場所にボトルを届けることができるようになります。それにより、ボトルが拾われる機会を増やすことができます。また、アプリ内でボトルメール後のやり取りを行えるようにすることで、より高い匿名性を保ちながらコミュニケーションを行うことができます。それ以外にもアプリで行うことでボトルメールを手軽に実施することができ、難易度を下げることができます。

開発環境：

クライアントサイドを、Kotlin を用いた Android アプリとして開発しています。

WebAPI となるサーバサイドは、Ruby on Rails を用いて開発しています。

## 4 Bottle Switchの概要

Bottle Switch は、不特定多数のユーザ同士の交流を実現するアプリです。アプリの名前にもなっている「Bottle Switch」とは、自己紹介を書いたラベルを貼り、メッセージ送信用のスイッチを入れたボトルのことです。

作成された Bottle Switch は、アプリにより、現実世界のランダムな位置に流れ着きます。そのボトルは、ユーザが近くを通った時に、アプリによって自動で回収されます。ユーザは、入手したボトルの中のスイッチを利用して、メッセージのやりとりをすることができます。しかし、そのスイッチは、ボトルを作ったユーザのものとは限りません。そのボトルは、あなたに、別のユーザを紹介するために作ったボトルかもしれません。

そうやって、ユーザ間でスイッチを入れ替え合うことにより、多くのユーザとの出会いを実現します。



## 5 Bottle SwitchのSwitchについて

Bottle Switch の中に入っているスイッチは、ユーザ同士の通信を行うための仮想的な物理デバイスです。通信のオンとオフを表現するために、スイッチとして表現することが、ユーザにとって受け入れやすいと考えました。

また、通信の機能を物理的なデバイスとして表現した理由は、デバイスがあれば、通信でき、なければ通信できないことを、より明示的にユーザに伝えることができます。つまり、スイッチを手放せば、そのユーザと関わる手段がなくなるため、悪い影響を後に引かない安心感が生まれます。また、1対1であることを強調することもできます。物理的なものとして、スイッチを扱う事で、繋がりのきっかけとなる「大切なもの」を表現し、特別感を演出できると考えています。

# 6 Bottle Switchの利用方法と機能

Bottle Switch のサイクルは、大きく分けて4つのステップで表されます。

1. ユーザは Bottle Switch を作成、送信する
3. 別のユーザが、流れついた Bottle Switch を拾う
3. スイッチを使って、メッセージのやりとりをする
4. コミュニケーションに満足したら、そのスイッチを再びボトルに詰め、送信する

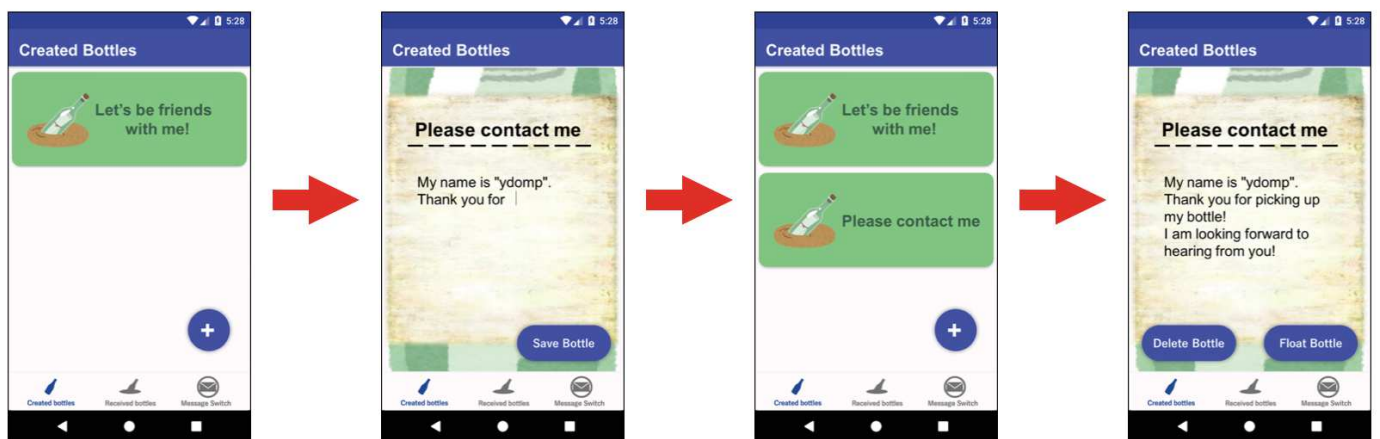
以下、ステップごとに、利用方法と機能について説明します。

## 6.1 Bottle Switchの作成と送信

まずは、Bottle Switch を作ります。Bottle Switch は、Created Bottles 画面で作成します。まず、Bottle Switch のラベルに、タイトルと自己紹介などを書き込みます。拾ったユーザは、このラベルだけを見て、メッセージのやりとりをするか決めます。そのため、自分の魅力を伝えられる文章を書く必要があります。

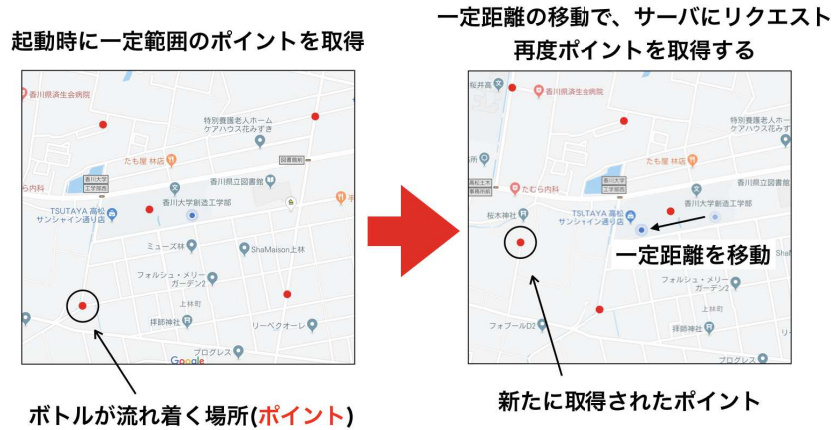
ボトルを作成すると、一覧にボトルが追加されます。ボトルを選択し、内容が問題なければ、Float Bottle を選択し、Bottle Switch を送信します。

送信された Bottle Switch はサーバサイドで、ランダムな位置に設置されます。この時、場所の選択は、事前に運営側によって設定された「ポイント」と呼ばれる、ボトルが流れ着く場所から選びランダムに決定します。

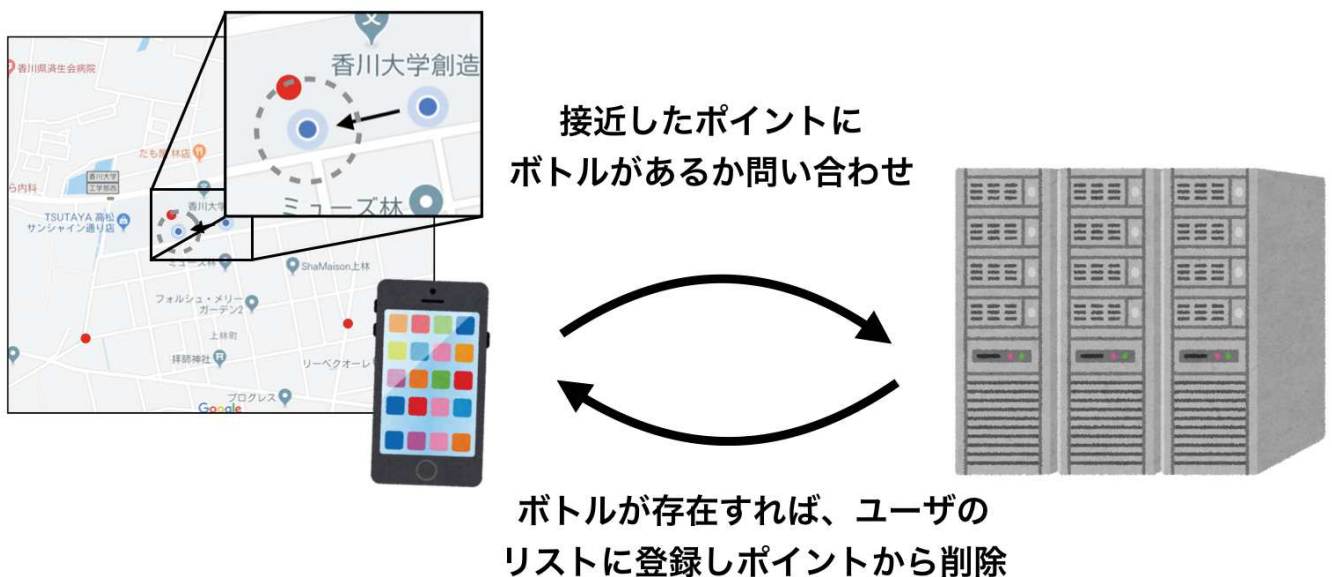


## 6.2 Bottle Switchの取得

Bottle Switch の取得は、端末の GPS 情報をもとに、アプリが自動で行います。まず、アプリは、端末の GPS 情報から、周辺のポイントを、サーバ側から取得します。ユーザが一定距離を移動すると、再度サーバにリクエストを送りポイントを再取得します。



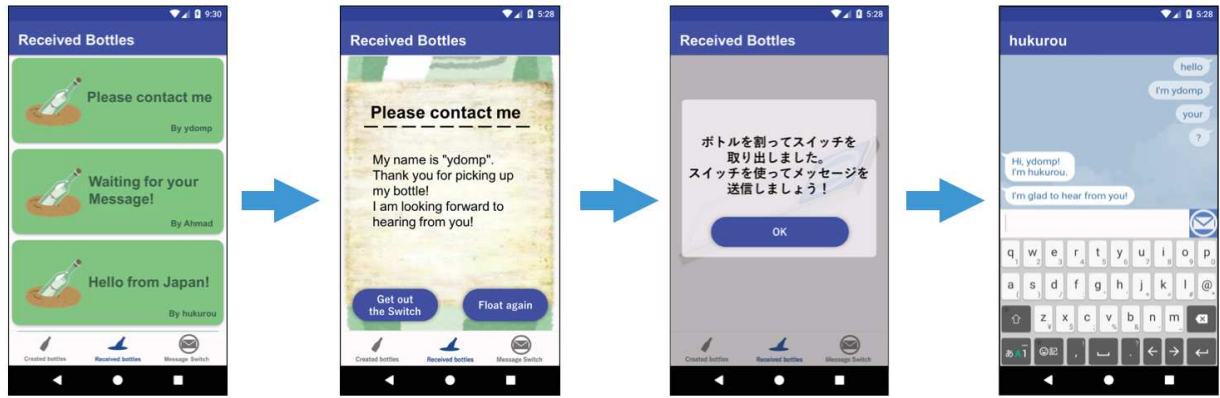
アプリは、ユーザがポイントに近づいた時に、ボトルが流れ着いているかをサーバに問い合わせます。もしボトルが存在すれば、ユーザのリストに登録され、ポイントからは削除されます。一度、ボトルの存在を問い合わせたポイントについては、一定時間、同一ユーザからの問い合わせをできないようにします。



## 6.3 メッセージのやりとり

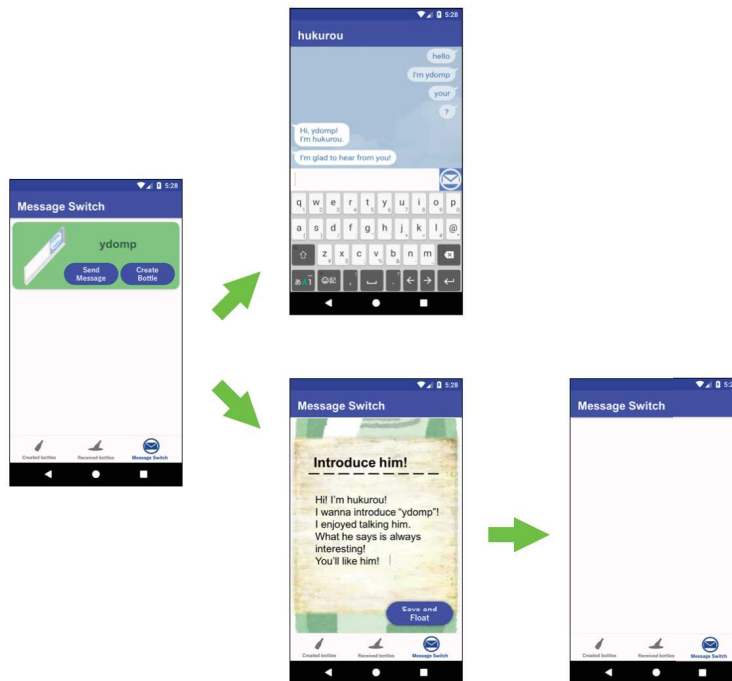
この世界のどこかに流れ着いた Bottle Switch は、近くを通ったユーザに拾われます。拾ったボトルは、Received Bottles 画面で確認することができます。ボトルを選択することで、本文を読むことができます。メッセージのやりとりがしたいと思ったら、Get out the Switch を選択することで、ボトルを割り、中からメッセージを送るスイッチを取り出します。この時、興味がなければ、Float again を押し、そのままボトルを再送信することもできます。スイッチを取り出したら、メッセージを送信し、ユーザ同士で交流を深めることができます。





## 6.4 スイッチの再送信

入手したスイッチは Message Switch 画面で確認でき、何度でもメッセージを送信できます。また、十分にメッセージのやりとりをしたあとは、そのスイッチを再び別のユーザのために送信することもできます。しかし、スイッチを取り出す時に、ボトルは割れてしまっています。そのため、新しいボトルを用意しなければなりません。つまり、新しくスイッチのラベルを書き、持ち主の魅力を紹介することができます。もちろん、送信した場合、スイッチは手元には残りません。次にいつ連絡が取れるかもわかりません。十分に考えてからボトルに詰めましょう。



## 7 入れ替えスイッチ

このスイッチを入れ替えあう事で、様々な人と交流する事ができます。しかし、繰り返し入れ替え合う内に、気の合うユーザと巡り会えるかもしれません。そのとき、ユーザはそのスイッチを手放したくはないはずです。つまり、いずれスイッチは入れ替わらなくなるかもしれません。

この入れ替えるためのスイッチは、入れ替わらないスイッチになる事が本当の意味での理想なのです。